

メキシコ政治情勢（2025年5月）

〔概要〕

【内政】

- 1日、ロドリゲス内務大臣は、新たな移民局（INM）長官にセルヒオ・サロモン・セスペデス氏を任命した。
- 4日、国家再生運動（MORENA）は、党の全国委員会において、選挙における現職の親族等の候補者擁立（縁故主義）の禁止及び公職への候補者の倫理指針の厳格化を盛り込んだ内部規則を全会一致で可決した。
- 5日、連邦上下両院は全国選挙期間（INE）宛書面にて、適性要件を満たしていないという理由で26人の裁判官候補者の取り下げを要請した。
- 5日付当地エル・フィナンシエロ紙は、大統領支持率等に係る世論調査結果を発表した。シェインバウム大統領の支持率は、81%。
- 15日から、全国教育者労働者連合（CENTE）は、メキシコ市等において抗議活動を実施。CENTEは、給与増額、2007年のISSSTE法の廃止、年金計算におけるUMAの廃止、及び労働例外制度の廃止などを求めて、大規模なデモ、全国ストライキ、メキシコ市憲法広場（ソカロ）での座り込みを実施。
- 17日、メキシコ海軍のクアウトモック練習帆船が米ニューヨーク市ブルックリン橋に衝突し、乗組員2名が死亡、17名が負傷した。
- 20日午前、メキシコ市ベニート・フアレス区モデルナ地区のトラルパン通りにおいて、グスマン・メキシコ市長私設秘書官及びムニョス同市長顧問が直接攻撃を受けて殺害された。
- 28日付当地エル・フィナンシエロ紙は、大統領支持率等に係る世論調査結果を発表した。シェインバウム大統領の支持率は、77%。
- 29日、全国選挙機関（INE）の総会は、裁判官選挙プロセスにおいて、資料等を使用したプロパガンダ及び投票の強制に該当する行為を防止する暫定措置を可決した。

【墨米外交】

- 3日、シェインバウム大統領は、麻薬密輸対策のために米軍がメキシコに派遣される案を、拒否していた旨明らかにした。
- 15日、ジョンソン駐墨米大使がメキシコに着任した。

【その他外交】

- 9日、シェインバウム大統領は、ローマ教皇レオ14世就任に関し祝意を表した。

- 13日、中国を訪問したデ・ラ・フエンテ外相は、北京で開催された中国・ラ米カリブ諸国共同体（CELAC）第4回閣僚会議の全体会議に出席した。また、14日、王毅中国外交部長と会談を実施した。
- 14日、シェインバウム大統領は、ブリセニョ・ベリーズ首相と電話会談を実施した。
- 15日、シェインバウム大統領は、カーニー加首相と電話首脳会談を実施した。
- 15日、メキシコ政府及び英国政府は第二回墨英多国間及び人権対話を実施した。
- 20日、スペイン・マドリードにおいて、墨スペイン第三回常設政策小委員会会合が実施された。
- 26日、ベルギー・ブリュッセルにおいて、墨EU第10回ハイレベル政策対話が実施された。

[本文]

【内政】

1 移民局（I N M）長官の任命

1 日、ロドリゲス内務大臣は、新たな移民局（I N M）長官に、セルヒオ・サロモン・セスペデス氏を任命した。セスペデス長官は、秩序ある、正規の、安全な人の移動を実現する移民政策を推進すると表明した。

2 国家再生運動（M O R E N A）、内部規則を制定

4 日、国家再生運動（M O R E N A）は、党の全国委員会において、選挙における現職の親族等の候補者擁立（縁故主義）の禁止及び公職への候補者の倫理指針の厳格化を盛り込んだ内部規則を全会一致で可決した。倫理指針では、企業、業者、メディアを含む、いかなる民間団体及び利害関係者から、公職における利益獲得や党の決定への影響を約束する見返りに、人的、物的、金銭的支援を要求又は受領することを禁じている。本規則は、チャベス上院議員がチワワ州知事選挙に向けて関係者の資金を不正に使用したことを受けて、シェインバウム大統領が党指導部に送付した書簡に示された提言を再確認する内容である。

3 連邦上下院、26人の裁判官候補者の取り下げを要請

5 日、連邦上下両院は全国選挙期間（I N E）宛書面にて、適性要件を満たしていないという理由で26人の裁判官候補者の取り下げを要請した。26人の中には、犯罪組織に近い人物、必要な司法における経験年数が足りないもの等が含まれると指摘されている。5月10日、I N E は同要請を棄却した。

4 大統領支持率に係る世論調査結果

5日付当地エル・フィナンシエロ紙は、大統領支持率等に係る世論調査結果を発表したところ、概要以下のとおり。シェインバウム大統領の支持率は、81%。

（1）シェインバウム大統領の取組を支持するか。

- ・支持する : 81%（前回（3月、以下同じ）83%）
- ・支持しない : 18%（前回15%）
- ・分からない : 1%（前回 2%）

（2）シェインバウム政権のトランプ米大統領との関係構築についての評価如何。

- ・とても良い、又は良い : 50%（前回36%）
- ・とても悪い、又は悪い : 37%（前回46%）

（3）米国政府による移民に関する広告やCMを見たことがあるか。

- ・ある : 46%
- ・ない : 55%

(4) メキシコは、国内メディアにおける米国政府の広告又はCMを許可すべきか、あるいは、禁止すべきか。

- ・許可すべき：28%
- ・禁止すべき：64%
- ・分からない：8%

(5) 各分野における「シェ」政権の取組を如何に評価するか。

ア 経済

- ・とても良い、又は良い：74% (前回68%)
- ・とても悪い、又は悪い：20% (前回27%)

イ 汚職

- ・とても良い、又は良い：52% (前回60%)
- ・とても悪い、又は悪い：39% (前回29%)

ウ 治安

- ・とても良い、又は良い：57% (前回49%)
- ・とても悪い、又は悪い：37% (前回43%)

エ 組織犯罪

- ・とても良い、又は良い：35% (前回27%)
- ・とても悪い、又は悪い：61% (前回69%)

オ 社会保障

- ・とても良い、又は良い：83% (前回79%)
- ・とても悪い、又は悪い：12% (前回13%)

カ テウチトラン事件

- ・とても良い、又は良い：51% (前回56%)
- ・とても悪い、又は悪い：37% (前回35%)

5 CNT Eによる抗議活動

(1) 15日から、全国教育者労働者連合(CNT E)は、メキシコ市等において抗議活動を実施した。CNT Eは、給与の100%増額、2007年のISSSTE法の廃止、教職員のキャリア制度に関する一般法(SICAMM)の廃止等を求めて、大規模なデモ、全国ストライキ、メキシコ市憲法広場(ソカロ)での座り込みを実施。

(注：2007年ISSSTE法とは、教職員の労働法改正を行い、集団年金制度の廃止等の変更を導入したもの。CNT Eは同法が年金制度と教職員の資産管理に悪影響を及ぼしたと主張して廃止を求めている。)

(2) 26日、CNT Eが裁判官選挙を前にINEに圧力をかけると示唆したことに対し、シェインバウム大統領は、保守勢力と結託して裁判官選挙を妨害しようとしていると非難した。その後、CNT Eは裁判官選挙への妨害を否定した。

6 クアウテモック号事故にかかるシェインバウム大統領の発言

17日、メキシコ海軍のクアウテモック練習帆船が米ニューヨーク市ブルックリン橋に衝突し、乗組員2名が死亡、17名が負傷した。シェインバウム大統領は、X投稿において、事故で命を落とした方への哀悼の意を表する、ご遺族に連帯と支援の意を表する旨述べた。また、19日の早朝記者会見で、クアウテモック練習帆船は、海軍の士官候補生にとって非常に重要な訓練艦であり、この衝突がなぜ発生したのか、調査が行われている、(米国の)調査結果を待つ必要があると述べた。また、船の修理が完了した後、引き続き同艦は運用されると明らかにした。

7 メキシコ市長の私設秘書官及び同市長顧問の殺害

20日午前、メキシコ市ベニート・フアレス区モデルナ地区のトラルパン通りにおいて、グスマン・メキシコ市長私設秘書官及びムニョス同市長顧問が直接攻撃を受けて殺害された。メキシコ市は、プレスリリースにおいて、捜査中であること、また不処罰はなく、犯人は逮捕され裁きかけられる旨表明した。シェインバウム大統領は、早朝記者会見中に同席していたガルシア・ハルフシュ治安・市民保護大臣から報告を受けた後、遺族に対し哀悼の意を表し、この事態の真相を徹底的に究明し、正義が実現されるよう努めると述べた。

8 大統領支持率に係る世論調査結果

28日付当地エル・フィナンシエロ紙は、大統領支持率等に係る世論調査結果を発表したところ、概要以下のとおり。シェインバウム大統領の支持率は、77%。

(1) シェインバウム大統領の取組を支持するか。

- ・支持する：77% (前回(4月、以下同じ) 81%)
- ・支持しない：22% (前回18%)
- ・分からない：1% (前回1%)

(2) シェインバウム政府のトランプ米大統領との関係構築についての評価如何。

- ・とても良い、又は良い：35% (前回(4月、以下同じ) 50%)
- ・とても悪い、又は悪い：50% (前回37%)

(3) メキシコの犯罪組織と闘うために、米国の軍事力を用いることに賛成か反対か。

- ・賛成：27% (前回(2月、以下同じ) 39%)
- ・反対：72% (前回59%)

(4) 大統領に期待される以下の資質についてシェインバウム大統領を好評価するか。

- ・誠実さ：77% (前回(2月、以下同じ) 83%)
- ・リーダーシップ：75% (前回82%)
- ・結果を出す能力：69% (前回78%)

(5) 各分野におけるシェインバウム政権の取組を如何に評価するか。

ア 経済

- ・とても良い、又は良い：67%（前回（4月、以下同じ）74%）
- ・とても悪い、又は悪い：27%（前回20%）

イ 汚職

- ・とても良い、又は良い：28%（前回39%）
- ・とても悪い、又は悪い：65%（前回52%）

ウ 治安

- ・とても良い、又は良い：48%（前回57%）
- ・とても悪い、又は悪い：40%（前回37%）

エ 組織犯罪

- ・とても良い、又は良い：28%（前回35%）
- ・とても悪い、又は悪い：67%（前回61%）

オ 社会保障

- ・とても良い、又は良い：74%（前回83%）
- ・とても悪い、又は悪い：21%（前回12%）

カ テウチラン事件

- ・とても良い、又は良い：38%（前回51%）
- ・とても悪い、又は悪い：45%（前回37%）

(6) 国内の主要な問題は何と考えるか。

- ・治安悪化：57%（前回（4月、以下同じ）66%）
- ・経済及び失業：13%（前回13%）
- ・汚職：21%（前回15%）

9 裁判官選挙における「アコーディオン（カンニングペーパー）」流布に関する暫定措置

29日、INEの総会は、裁判官選挙プロセスにおいて、いわゆる「アコーディオン」と呼ばれる資料を使用したプロパガンダ及び投票の強制に該当する行為を防止するための暫定措置を可決し、同資料を作成した者が誰であれ、配布する者に対し、その配布を控えるよう指示がなされた。タデイINE評議員長は、特定の候補に投票するよう働きかけを受けたすべての人々が、そうした働きかけには応じず、投票を前に、個人的な分析に基づきそれぞれの投票権を行使するよう努めてほしいと述べた。

（注：「アコーディオン」とは、投票用紙を模した紙に特定の候補の番号及び氏名が書かれたもの。本指示の前に、SNS、公共施設等で配布されていることが報じられていた）。

【外交（墨米関係）】

1 シェインバウム大統領、米軍を反麻薬密輸対策のためにメキシコに派遣する案を拒否
3日、墨米間麻薬問題に関しシェインバウム大統領は、過去の墨米電話会談で、トランプ大統領から麻薬密輸対策のため米軍をメキシコに派遣する案を打診されていたが、これを拒否していたことを明らかにした。

2 ジョンソン駐墨米大使がメキシコに着任

15日、ジョンソン駐墨米大使がメキシコに着任した。16日、デ・ラ・フエンテ外相を表敬訪問。19日に信任状をシェインバウム大統領に捧呈した。

【外交】

1 シェインバウム大統領のローマ教皇レオ14世就任への祝意

9日、シェインバウム大統領は、早朝記者会見の質疑応答において、ローマ教皇レオ14世就任に関し意見を求められ発言したところ、概要は以下のとおり。

（1）教皇就任に際し祝意を表す。ローマ教皇レオ14世は、カトリック教会の指導者であり、バチカン市国の首長であり、貧しい人々への配慮を重視する人物である。教皇は、貧しい人々のニーズに注意を払いつつ、世界の平和と繁栄の構築にも尽力するだろう。カトリック教会の指導者としてこのような視点を持つ人物は、その思想や立場に関わらず常に尊敬されているが、教皇レオ14世は、その経歴を考慮すると、フランシスコ教皇の遺志を継ぐ形で行動するだろう。これは我々にとって大きな励みである。

（2）カトリック教徒が多数を占める国であるメキシコにとって、ローマ教皇は一国の元首というのに加えて重要な意義を持つ存在である。昨日、自分（シェインバウム大統領）は、教皇をメキシコに招待したいことをお伝えした。

2 中国・ラ米カリブ諸国共同体（CELAC）第4回閣僚会議へのデ・ラ・フエンテ外相の出席

（1）13日、デ・ラ・フエンテ外相は、北京で開催された中国・ラ米カリブ諸国共同体（CELAC）第4回閣僚会議の全体会議に出席した。

（2）14日、デ・ラ・フエンテ外相は、王毅中国外交部長と会談した。会談において、同外相は、メキシコと中国の長きにわたる関係に言及し、両国の間では数世紀にわたり貿易関係が続いてきたことを強調。また、メキシコが「一つの中国」の原則にコミットしていることを再確認し、これはメキシコの根本的な外交政策であり、長年一貫して支持されてきたと述べた。さらに、「ルールに基づくシステムは、協力の効率化と共通の関心事項の進展を可能にする」と述べ、メキシコと中国の絆を強化するための多国間協力の重要性を強調した。王毅外交部長は、両国がグローバル・サウスに属する点から、両国間の関係を強化する用意があるとし、経済・政治分野における協力の重要性を強調した。

3 墨ベリーズ首脳電話会談

14日、シェインバウム大統領は、ブリセニョ・ベリーズ首相と電話会談を実施した。両国を結ぶ友好、協力、尊重の関係を再確認し、家畜の市場アクセス拡大などに関して議論した。

4 墨加首脳電話会談

15日、シェインバウム大統領は、カーニー加首相と電話首脳会談を行った。シェインバウム大統領は、カーニー首相の当選に祝意を表した。両首脳は、USMCAに基づく両国の強固な貿易関係をさらに発展させること、及び将来起こり得る衝撃に備えてそれぞれの経済を強化することが急務であることを協議した。両首脳は、両国の高官に対し、二国間関係をさらに深める機会を早急に模索するよう指示し、緊密な連絡を維持することで合意した。

5 第二回墨英多国間及び人権対話の実施

15日、メキシコ政府及び英国政府は第二回墨英多国間及び人権対話を実施した。メキシコ側は、オチョア外務省多国間問題・人権担当次官、英国側は、ジャクソン外務・英連邦・開発省多国間問題・人権局長が出席した。両国は、両国での政権交代を受けて多国間問題及び人権に関する議論を再開する機会を歓迎した。会談では、両政府の優先事項を詳細に説明し、協力及び相互に関心のある分野を特定した。両国は、最新の地政学的動向について議論し、ハイチ、ミャンマー、スーダン、ウクライナ及びガザの紛争に関する意見交換を行った。過去の対話を踏まえ、両国は、現代的で改革された活力ある国連の必要性について合意し、「UN80イニシアチブ」が好機であることを強調した。また、両国は、核軍縮及び不拡散、効果的な軍備管理の重要性を強調した。

6 墨スペイン第三回常設政策小委員会の実施

20日、スペイン・マドリードにおいて、墨スペイン第三回常設政策小委員会が実施された。メキシコ側はメルカド墨外務筆頭次官、スペイン側はスメルソ・イベロアメリカ担当国務大臣が共同議長を務めた。本会合は、両国間の対話を強化し、包括的な協力を深めることを目的に毎年実施されている。

7 墨EUハイレベル対話の実施

26日、ベルギー・ブリュッセルにおいて、墨EU第10回ハイレベル政策対話が実施された。メキシコ側はメルカド外務筆頭次官、EU側はスクーグ対外活動庁政務担当次官補が出席した。会合では、戦略的パートナーシップの現状を幅広く検討し、より公正でルールに基づく国際秩序の構築に焦点を当てた。両者は、国際法の完全な遵守を基盤に、国

際平和及び安全保障の促進、多国間主義の活性化、2030年アジェンダ、気候変動対策、保健分野のレジリエンス、ジェンダー平等へのコミットメントを再確認した。また、近代化グローバル協定の交渉の進展について議論し、早期の署名に向けた進展と第8回メキシコEU首脳会議の準備の重要性について一致した。さらに、グローバルゲートウェイ・イニシアティブの投資枠組で推進する優先事業を特定し、特にプラン・メキシコから派生する事業に焦点を当てるとともに、二者間対話メカニズムの現状について議論し、第31回墨EU合同議会委員会の成功を評価した。